

## 新たな安全第一の企業風土を再確立しよう！

3月16日、4時20分頃、静岡県牧之原市の東名高速道路上り線で、走行中の大阪発東京行き高速バス「青春メガドリーム号」から出火。JR東労組組合員が乗務するバスは、近くの牧之原SAに緊急停車したが、乗客を非難させた後に全焼した。

東労組組合員の冷静かつ迅速な対応により乗客77名に死傷者はいなかった。たった一人で77名のお客様の命をまもり抜いた組合員の勇気ある行動に、改めて私達は学ばなければならない。

「メガライナー号」は2002年に、日本初の全長15メートル、座席数84名でハイデッカー車の2倍の輸送能力を持つ車両として導入されたが、導入以降に何度も故障を繰り返し、組合員には多くの苦労が強いられた。そして昨年5月29日、名神高速道路上り線大津SA付近で、西日本ジェイアールバスの所有するメガライナー号が走行中エンジン付近から出火し、乗客を非難誘導した後に車両は全焼した。

バス関東本部は、ジェイアールバス関東会社に対して同日「車両火災の原因を明らかにして、安全対策を万全にするまで同型車両の運行を停止すること」を申し入れて厳しい議論を展開してきた。職場の組合員は「いつ炎上するかわからないバスに乗務するのは不安だ」という意見が大半であった事を受け、「原因の特定がされるまでは絶対に運行を停止するべきだ」と強く主張したが、残念ながら会社は我々労働組合の声に耳を傾ける事なく、同型車両2両と同一メーカーによる車両5両の緊急点検をおこない、問題ないとして火災当日にも関わらずメガライナーの運行に踏み切った。また、出火原因については特定されていないが、概ね電気系統からの出火が原因と説明。従来の点検に加えて、今後は重点点検を重ねておこなうことにより、安全は確実に担保されているとしていた。そして3月16日、バス関東会社保有のメガライナーを炎上させ、これまで東労組組合員が血の滲むような努力をして築き上げた信頼と信用を、著しく失墜させた事は言うまでもない。

昨年5月29日に発生した西日本ジェイアールバスの所有する同型バスの火災事故以降、JR東労組バス関東本部は「お客様と乗務員の命をまもる」を掲げ、全職場から運動を創り出してきたが、このような事態を招いた事は非常に遺憾であり、バス関東本部としても重く受け止めていかなければならない。そして今こそ東労組組合員一丸となり、安全よりも運行を優先させる会社体質を払拭し、失われた信頼と信用を回復していくために、全組合員で原因究明に取り組み、我々の職場を守っていこう！！

2009年3月18日  
東日本旅客鉄道労働組合  
JRバス関東本部